

## 「みんなで知ろう！取り組もう！食品ロス削減」議事要旨

---

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年10月29日(木)13:00~15:01
2. 場 所：ホテルモナーク鳥取
3. 登壇者：  
消費者庁 政策立案総括審議官 津垣修一  
ごみ清掃芸人、マシンガンズ 滝沢秀一（VTR出演）  
消費者庁 消費者教育推進課食品ロス削減推進室長 杉田敬一  
鳥取県 生活環境部循環型社会推進課 課長 後藤田拓也  
鳥取県 生活環境部くらしの安心局消費生活センター 所長 関通子  
鳥取県連合婦人会 会長 奥本範子  
株式会社ハローズ 商品ライン本部 商品管理室 室長 太田光一  
愛知工業大学 経営学部経営学科 教授 小林富雄

(プログラム)

1. 開会挨拶 津垣修一
2. 施策説明 「with コロナ時代の消費者行政」杉田敬一
3. 第1部講演① 「私の食品ロスへの想い」滝沢秀一（VTR出演）
4. 第2部パネルディスカッション 「私たちの食品ロス削減アクション」  
ファシリテーター 津垣修一  
パネリスト 後藤田拓也/関通子/奥本範子/太田光一/小林富雄
5. 第3部講演② 「地域で食品ロス削減を進めるためには」小林富雄
6. 閉会挨拶 杉田敬一

\* 敬称略・順不同

---

### 1. 開会挨拶

我が国では食料自給率が低く、食料の多くを海外に依存しているなか、多くの食品ロスが発生しています。食料を捨てるということは、経済的な損失や環境への影響など、様々な問題を引き起こします。

食品ロス削減のためには、国民各層がこの問題を「他人事」ではなく、「我が事」として捉え、「理解」するだけにとどまらず「行動」することが必要です。本日のシンポジウムが、行動へのきっかけとなることを期待しています。

### 2. 施策説明 「with コロナ時代の消費者行政」

消費者庁では、今までも行ってきた消費者保護や消費者教育の推進をベースとし、これからは、デジタル化、災害などの緊急時等の課題への対応や、持続可能な社会の構築に向けた消費者と事業者のさらなる協働のための取組が重要となっています。

また、持続可能な開発目標が2015年に国連サミットで採択され、日本でも取組が進められており、消費者庁は主に目標12の「つくる責任、つかう責任」を担っています。持続可能な社会の実現に向けた社会的課題を解決するためには、事業者の取組を促すと同時に、消費者の倫理的な行動を促すことが不可欠な状況となっています。

こうした消費者、事業者、行政の「協働」により取り組むべき課題の一つが食品ロスの問題です。日本の食品ロス量は612万トン（平成29年度）と推計されています。昨年10月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行され、食品ロス削減を国民運動として推進していくことが明確化されました。消費者、事業者双方の食品ロス削減の取組を促すため、政府では関係省庁が連携・協力して取り組んでいますし、地方公共団体での取組も不可欠です。皆様を始め、一緒に取り組んでいければと考えています。

### 3. 第1部講演① 「私の食品ロスへの想い」

芸人の傍らごみ清掃員として働いている中で、まだ食べられるにもかかわらず、様々な食品がごみとして捨てられているのを目の当たりにしてきました。また、福祉施設に集められた（スーパーで廃棄される予定だった）食品の多さを見て驚きました。

食品ロスの削減には、企業・消費者・行政が三位一体となって取り組んでいく必要があります。

人がごみと思った瞬間に、そのものはごみになります。私は「3R（Reduce、Reuse、Recycle）」に「Respect（リスペクト）」を追加して「4R」としたいと思っています。個人それぞれが、生産者や食べ物、周囲に対して、敬意を払うことが大事です。そうした気持ちがあれば、食品ロスを少なくしていけるのではないかと思います。

### 4. 第2部パネルディスカッション 「私たちの食品ロス削減アクション」

#### ①後藤田

鳥取県では、本年3月に食品ロス削減推進計画を策定し、6つの柱で取り組みを進めています。教育および学習の振興、普及・啓発等やフードドライブを代表とする未利用食品を提供するための活動の支援、食品関連事業者等の取り組みに対する支援などです。

これらの取り組みをいかに県民の方々に広く周知するかが課題です。食品ロスが発生しにくい社会、それが当たり前に取り組まれている社会を目指して、取り組みを進めたいと考えています。

#### ②関

鳥取県消費生活センターでは、平成27年度から、消費者である県民の皆さまに対し、エ

シカル消費の推進に取り組んでいます。県民を対象とした「とっとり消費者大学公開講座」の開催や大学等の授業として、「くらしの経済・法律講座」を開設し、若年層へのエシカル消費の啓発などを行っています。食品ロス削減を含む、エシカルな消費行動を積極的に実践していただくよう、消費者教育を通じて、自立した賢い消費者を育成することを目指しています。

### ③奥本

鳥取県連合婦人会では、食品ロスの半分は家庭から出ていることに注目し、もったいないの心を広げていきたいと考えています。今までの大人向けの活動に加え、幼児を対象とした意識啓発に力を入れています。会員が、保育所、幼稚園などに出向き、手作りの「もったいないの歌」や紙芝居などを通して子どもたちの興味・関心を高めています。皆でもったいないの気持ちで取り組み、食品ロス削減の輪を全県に広げていきたいと思っています。

### ④太田

ハローズでは、2017年からハローズモデルとしてフードバンクアリスに乳製品や大豆製品、青果、デイリー商品などを提供しています。この活動が、同業他社のほか、メーカーや食品加工会社にも拡がり、社会福祉協議会やフードバンク、子ども食堂などに商品を提供しています。

平成30年の西日本豪雨では、アリスと共同で、1年間、真備町の支援を行いました。フードバンクアリス、アリス福祉会の取扱数量は、最初は4トンでしたが、今年は90トンになる見込みです。岡山県内では、約8割のスーパーにご協力いただいております。鳥取の企業にも声掛けをしたいと思います。

### ⑤小林

ドギーバッグ普及委員会では、特に外食で発生する食べ残しを持って帰ろうという運動を行っています。

会員を募り、スターターキットと呼ばれる、食べ残しを入れるランチボックスや「自己責任で持ち帰る」という宣言カード、店に貼って頂くシールをセットにして渡しています。

ドギーバッグの普及については、女子高生のグループが地域と協力して活動を行ったりしており、地域でドギーバッグの活用をどのように展開していくかを考えていきたいと思っています。

## 5. 第3部講演②「地域で食品ロス削減を進めるためには」

一般的に、食品ロスの発生要因というのは、消費者の事情と企業側の外観品質基準や廃棄費用の問題、大量陳列が要因です。企業側としては、原価を安くし、大量に仕入れ、大量に売ることが、最近の近代的経営ということがあります。

食品ロスには、過剰な消費者サービスによって世の中が便利になるほど、発生しやすくなるという、ある程度の相関が見られるのではないかと考えています。

減らさなくてはならないということではなく、食品ロスを削減することで、良い社会をつくるという視点で、進められると良いと思います。

#### 6. 閉会挨拶

消費者庁としても、引き続き、食品ロス削減を国民運動として推進していくため、関係省庁と連携しながら取り組んでいきます。

以上